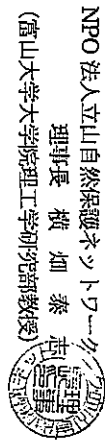


平成 30年 3月 8日

意見書



NPO 法人立山自然保護ネットワーク
理事長 横畑 泰志 (専任)
(富山大学工学部助教)

日頃立山の自然保護に関し、種々ご理解を頂いていることと拝察し、感謝いたします。

昨年来の報道によれば、富山県におかれましては、昨年度に「立山黒部の大規模な伐採を元々を考慮する検討会」を立ち上げられ、29項目のプロジェクト案が示されました。今年度は「立山黒部」世界遺産化推進会議」を立ち上げられて、それらの提案を元に協議を進めておられます。

上記の検討会の趣旨として、「立山黒部」は国立公園に位置し、自然環境の豊かさが魅力の中心であることから、単に観光地としての開発のみを考慮のではありません。適切な自然環境の保全を行うことを前提に検討することとしたい。」とされています。しかしながら、協議についての一連の報道を拝見する限り、自然環境に対する配慮に十分な点がみられ、大変憂慮しているところです。

中部山岳国立公園富山県立山地区は、立山黒部アルペンルートの自動車道建設の着工以来、道路建設などによって、直接・間接に自然環境や景観の大規模な破壊が行われてきました。平成 24年には弥陀ヶ原・大日平から称名麓にかけて、ラムサール条約登録湿地として認定されましたが、一方では外来植物やイノシシ、シカの侵入、樹林帯での樹木の枯死などの現象が進行し、立山連絡の自然は様々な脅威に曝され続けられています。それに拍車をかけるおそれのある今回の論議について、以下の 5点からご意見申し上げたいと存じます。立山の豊かな自然や景観を、子々孫々まで伝えることができるよう、ご賢察をいただければ幸甚に存じます。

1. 早期の開業について

昭和 46年の立山黒部アルペンルート全線開通以来、4月 25日開業が続いていますが、平成 8年頃から徐々に繰り上げられ平成 10年代半ばからは 17日開通とされてきました。しかし、この数年間は開通イベントと曜日の関係から、前年より 1日前倒しとなることになり、今年度は 15日の開通とされました。

このような早期の開業によって、次のような問題が懸念されます。(1) この時期はまだ登山道(遊歩道)が明確に露出していないので、早期に露出した植生帯に対する、

観光客による踏みつけなどの影響。(2) 早期の除雪による樹林帯の樹木の損傷。特に堅くしまった雪が林内に投雪されることにより、自動車道路沿線の樹木の枯損の一要因となる。(3) 除雪された路面上による微気象の変化が路傍の植生に影響を及ぼし、外来植物の侵入と繁殖を増進する恐れがある。(4) ライチョウの前繁殖期の行動を攪乱し、生存や繁殖準備活動を妨げる影響。

2. 近年営業について

年間を通しての営業は、アルペンルート沿線に生息するライチョウなどの動物に、様々な影響を及ぼすことが懸念されます。これには越冬中の動物に対する直接的な攪乱の影響だけでなく、冬期を含めて人の活動の影響が続き、食物などが供給されることにより定着するキツネやカラス類による影響が含まれます。また、植生に対する影響も考慮する必要があります。

3. 早期や夜間の営業について

ルート沿線に生息する野生動物の多くは、車両の通行などの人間活動の影響で夜行性または日没や日の出前後に活動する夜行性の生活に順応していると考えられ、早期や夜間の営業によって様々な影響が懸念されます。まず考えられるのは交通事故の増加および道路沿いで営業するライチョウへの攪乱の増強であり、後者については鳥類でよく知られる、ストレスによる未受精卵の増加も懸念されます。長期的には、移動の減少による集団の分断化や衰退も憂慮されます。

4. ローグウェイの建設について

現在提案されているローグウェイの建設経路は、ラムサール条約登録湿地および特別保護地区に近接しており、その景観を大きく改変してしまうばかりか、条約登録の条件に反するものとして、登録取り消しの可能性を孕んでいます。また、検討会で提案されていたような、千寿ヶ原から弥陀ヶ原まで 15km のローグウェイは技術的に不可能であり、途中に支柱の建設が行われた場合は、ラムサール条約登録湿地エリアの内外を問わず自然破壊の影響は免れないものと考えます。

5. 新たな宿泊施設の建設について

ホテル立山(昭和 47年完成)の建設時、資材置き場となった室堂平の一角は、未だに建設前の植生に戻っていません。検討会の中間とりまとめ案では、新たな施設の建設は「既に開発されている場所の活用を図るもの」とされていますが、「景観や植生を書きなすり」で建設することは不可能であり、少なくとも景観は不可逆的に大きく改変されることとなります。従来型のマストツリーズムの拡大によってこれ以上立山連絡の美しい自然や景観を破壊することのないよう、行政による関連業者への厳格な指導が必要とされます。

参考資料